

自動運転社会に向けて、交通安全教育の課題検証と教育基盤整備

－学校と家庭での児童生徒に対する歩行者教育の重要性－

○片山 昇（交通教育NPO OSCNじてんしゃスクール 代表／元愛知県小学校教員）

若杉 孝司（尾張旭市議会議員／尾張旭市スクールガード／OSCN副代表）

Study on the condition of traffic education toward realizing a safe autonomous driving society

- Significance of pedestrian training in compulsory education -

Noboru KATAYAMA (Traffic education NPO OSCN Founder / former Elementary school teacher),

Takashi WAKASUGI (Owariasahi city council member / Owariasahi city school guard / OSCN vp)

1. はじめに

自動運転社会の発達に向け、交通社会で必要とされる基礎教育についての検証を行った。手がかりは交通参加者の基本となる「歩行者」の交通行動の現況である。自動運転社会の安定的な発展基盤は、歩行者教育の国民への浸透度合いだと考える。本稿では、義務教育期における歩行者教育の実施状況への検証と、その課題について考察する。

2. 背景と予想

小学校教員と交通教育団体主宰経験から、義務教育期の子どもたちへの家庭や学校での歩行者教育の実施が不十分だと感じる。この時期に於ける歩行者教育の不足は、個人の生涯に亘り影響し、歩行時や乗り物の運転時にルール不遵守で自由気儘な交通行動を生じさせることが予想できる。

整然とした交通環境の担保が必要な自動運転社会に対して、人への教育不足が招く悪循環は、大きな障壁となり得る。

3. 交通参加者（歩行者）の現状

我が国の交通事故は欧米の交通先進国に比べて歩行者や自転車の致死率が高い。これは、自動車側のルール無視や不十分な確認等が主要因として挙げられるが、歩行者や自転車側の交通規則の未習熟や、不十分な安全確認等の要因も挙げられる。

そこで、歩行者の交通行動の観察を、近隣の駅前です平日5日間にわたり行った。その結果、スマホ等注視のながら歩行や横断、イヤホンによる聴きながらの歩行、道路の斜め横断等、危険な状況を自ら作り出している割合が、高校生以上の歩行者に、約30%認められた。

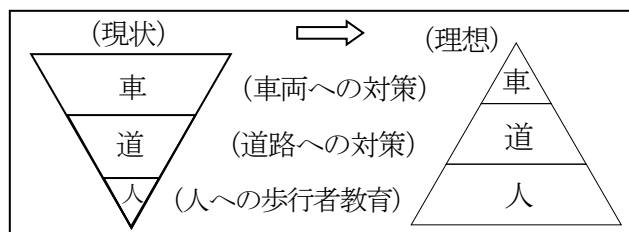
4. 義務教育期の交通安全教育 今日的課題

大人の交通参加者の悪習（スマホ歩き・ながら運転等）が、児童生徒への悪いお手本となる傾向がある。一方、家庭での交通安全教育の機会も減少している。又、小学校での歩行者教育も、学校の登下校時の集団や分団での安全行動を促す年3回程の指導や年1回の警察等による行事的交通安全講話等が主流である。1960年頃より、学習指導要領では、交通安全の内容について記述され各校で教育が始まったが、2000年頃になると、学校教育現場では実質的な実施縮小をするようになった。

5. 自動運転社会に向け必要とされる教育

車両の運転者に対して、「子供及び高齢者の安全確保」という啓発をよく耳にする。しかし、交通参加者を守る為には、「児童生徒期の歩行者段階からの、潜在化した危険に気づける訓練や安全確認行動等の繰り返しの学習」が不可欠である。この教育が、状況に応じて適切な交通行動へと自己自制できる交通参加者を生み出す。つまり、好循環を生み出す教育の長期的な視点が必要である。

6. 交通社会の基本構成からの考察



(図：自動運転社会を支える理想的なバランス)

上は、持続可能な形態で自動運転社会が成立する為には、どのような対策の構成が理想となるかを私が考察した構図である。交通社会の基本的な3要素となる「人」・「道路」・「車両」を用いた。

交通社会の根源「人」への歩行者教育が脆弱なら、交通のあらゆる形態（歩行・車両）でルールを守れず自由奔放な交通行動をとる人々の増加に繋がる。現状その対策として、道路や車両側への安全対策や装備改善に重点がおかれることも多い。しかし、それらのみでは根本的な問題解決に至れず、結果、対症療法的な対策の肥大化に繋がる。

つまり、義務教育段階での交通安全教育の内容や実施状況を、今一度精査する。そして、歩行者教育を十分に行えるように、教育行政面での着実な計画と支援を可能にする体制をつくる。このような長期的視点に基づいた歩行者教育の充実が、自動運転社会の発達に向けて重要であると考えられる。

参考文献

- 1) 須藤春一：“21世紀の安全教育－安全能力開発の構想－” 帝国地方行政学会, 433pp, 1972.
- 2) 佐藤龍三 他：“交通安全教育実践資料” 全国交通安全教育研究学会, いずみ出版 414pp, 1973.
- 3) 吉田瑩一郎：“我が国の安全教育の歴史と展望－制度的視点から－” 安全教育学会, 2001.